

呉市立吉浦中学校

住所 : 呉市狩賀町 8 - 6
 TEL : 0823-31-7570
 FAX : 0823-31-2837
 URL : yosc@kure-city.jp
 推進者 : 平田 洋一

1 研究主題

「心豊かで、活力に満ち、自ら考えよりよく生きようとする生徒の育成」

～ 体験活動等を活かした「道徳の時間」の充実～

2 研究の概要

学校行事・生徒会活動・学級活動・総合的な学習の時間などにおける様々な体験活動、また、日々の学校生活における朝の会・帰りの会・清掃時間といった日常的な活動における体験など、学校教育活動のあらゆる場面を道徳教育実践のチャンスとしてとらえ、それらの実践のかねめの時間として「道徳の時間」を位置づけていく。

3 心に響く道徳の授業「ベスト3」

学 年 第1学年	学 年 第2学年	学 年 第3学年
<p>主題名 人間愛 2 - (2)</p> <p>ねらい 患者の置かれた状況に対して自分にできることを精一杯やりきる主人公の人間愛あふれる行動から他者に対する深い思いやりの心情を育てる。</p> <p>資料名 「目撃者」(ブラックジャック)</p> <p>授業内容 爆弾テロによって多くの尊い命が奪われる。その犯人らしき人物を目撃した唯一の女性は爆破の被害で失明。何とか彼女を視力を回復し容疑者を絞り込みたい警察の依頼を受けたブラックジャック。しかし「たとえ手術をしても視力の回復は5分のみでまた見えなくなる。失明という同じ苦しみを再び与えるだけの手術はできない」と手術を拒否。ここまでのストーリーを確認した上で生徒たちに「自分なら手術をするかしないか」を考えさせネームプレートで黒板に意思表示をさせたうえで意見交流を行った。</p> <p>手術する14人(犯人を逮捕することでより多くの人を救う)・手術しない23人(患者に失明の恐怖を2度も味わわせるのは残酷)。このあと後半をストーリーを確認。「手術費に三千万円出す」との言葉に手術を行い5分間だけ回復した視力は犯人逮捕に貢献。しかし5分後再び失われていく視力。最後の光景をまぶたに焼き付ける患者...このあと漫画のラストシーンでBは警察官に何を告げ去っていったのかを考える。生徒たちから「最後の景色は彼女にとって本当に美しく見えたろうな。金はいらないよ」といったたくさんのお名セリフが意見として出される。最後に実際の漫画のセリフをみんなで確認する。「警部、三千万円は必ず彼女にあげてください。約束ですよ」～ブラックジャックの行動が患者に対する深い思いやりにあふれていることをしっかりと感じ取らせることができた。</p> 	<p>主題名 心の弱さ、そしてそれを乗り越える強さ 3 - (3)</p> <p>ねらい 人間には誘惑に負けてしまう弱さと、それを克服していこうとする強さの両方があることを知らせ、人間として生きていく喜びを大切にしていこうと心情を育てる。</p> <p>資料名 「足袋の季節」(あかつき)</p> <p>授業内容 12月に実施。授業の前日、寒い中実施した地域清掃クリーンキャンペーン。その寒さがまだ記憶に新しい中での授業。物語は冬の小樽、寒い中足袋を買う金になかった「私」は、ある日、大福を売るお婆さんからのおつりをごまかしてしまう。「この40銭があれば足袋が買える」お婆さんは私のウソに気づかぬふうを装い「ふんばりなさいよ」という一言を私に投げかける。数年後、正式に就職し始めての給料を手にこのお婆さんに40銭を返そうとした時にはすでにお婆さんは亡くなっていた。</p>  <p>授業の中ではワークシートを工夫した。「40銭をごまかしてしまった私」の心情を考えるAシートと「それに気づかぬふりをしたお婆さん」の心情を考えさせるBシートを準備。無作為にシャッフルし自分の所に配布されたシートの質問について考えさせた。ロールプレイのような形で2人一組で発表させたりすることにつなげていける。さらに中心発問は「私はごまかした40銭で実際に足袋を買ったのだろうか？それとも買わなかったのだろうか？」買ったと思う - 16人、買わなかったと思う - 14人。それぞれの意見を交流しながら、私のゆれる心情をしっかりとみんなで考えていく。お金を返そうとしたときにはすでにお婆さんがすでになくなってしまった事実。しかし、お婆さんの一言で頑張れた私。生徒たちは人間の持っている強さと弱さを自分自身の経験とも重ね合わせながら考えることができた。</p>	<p>主題名 人間愛 2 - (2)</p> <p>ねらい 喜劇王と呼ばれたチャップリンの生き方を通して、そこに流れている人間へのやさしいまなざし、人間愛のすばらしさを感じ取らせる。</p> <p>資料名 「知ってるつもり」(VTR)</p> <p>授業内容 社会科の授業などでチャップリンの映画を活用したことを前提に実施した授業。教材は以前放送された「知ってるつもり」を前半7分と後半8分に編集。前半 - 幼くして父親はいなくなり母親との極貧の生活。その母親も芸人としての仕事を失ってしまふ。しかし、その貧しい生活の中で母親と結ばれた深い絆はチャップリンにとって何ものにも代えられない財産だった。後半 - しかし貧しさの中、チャップリンが11歳の時に母親はついに発狂。様々な仕事を転々としたのち芸人としての生活が始まり1910年アメリカにわたり映画と出会う。大きな成功を手にしたが、母親はついに最後まで彼の成功を理解できないまま亡くなった。</p>   <p>授業の導入では、素顔のチャップリンの写真を提示し誰かを予想させることで関心を持たせた。これだけハンサムで二枚目な彼が映画の中では貧しい紳士でみんなから笑いものにされるそんな役柄を生涯つらぬいた理由を考えさせることでパントマイムによるドタバタ喜劇にこだわり続けたチャップリンの生き方の根底に流れている人間に対する優しいまなざしを感じ取らせていった。映画で知っていたチャップリンのイメージとはかけ離れた生い立ちに驚きながらも、そこに彼の笑いの持っている優しさやすばらしさの原点があることを知り、チャップリンがコメディアンとしてつらぬいた生き方に深い感銘を受けていた。</p>